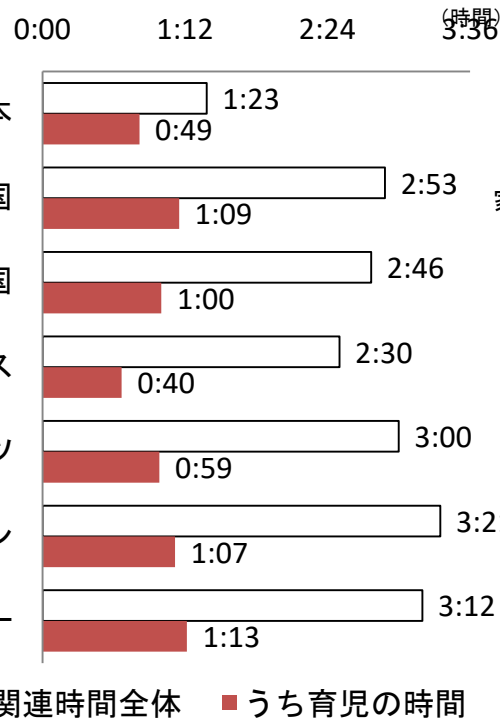


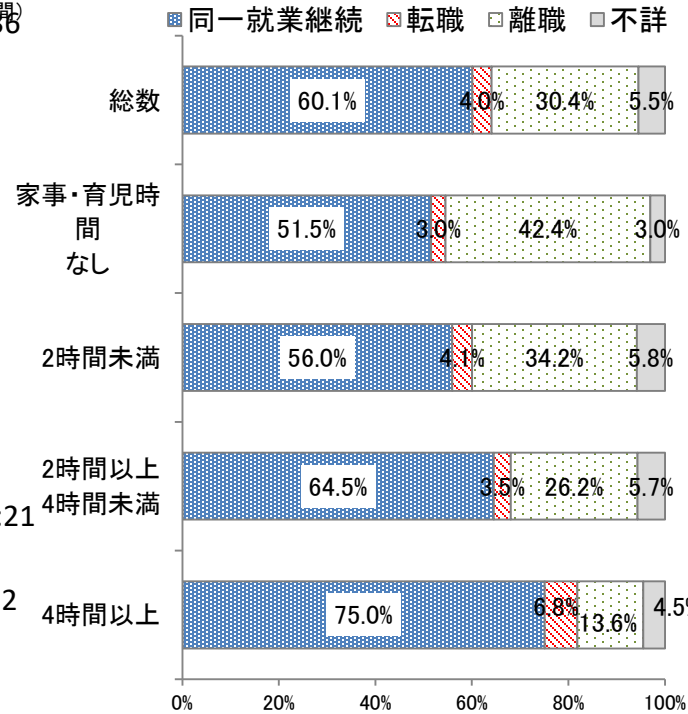
# 女性の継続就業・出産と男性の家事・育児時間の関係

- 日本の夫(6歳未満の子どもを持つ場合)の家事・育児関連時間は、1時間程度と国際的にみて低水準
- 夫の家事・育児時間が長いほど、妻の継続就業割合が高く、また第2子以降の出生割合も高い傾向にある。

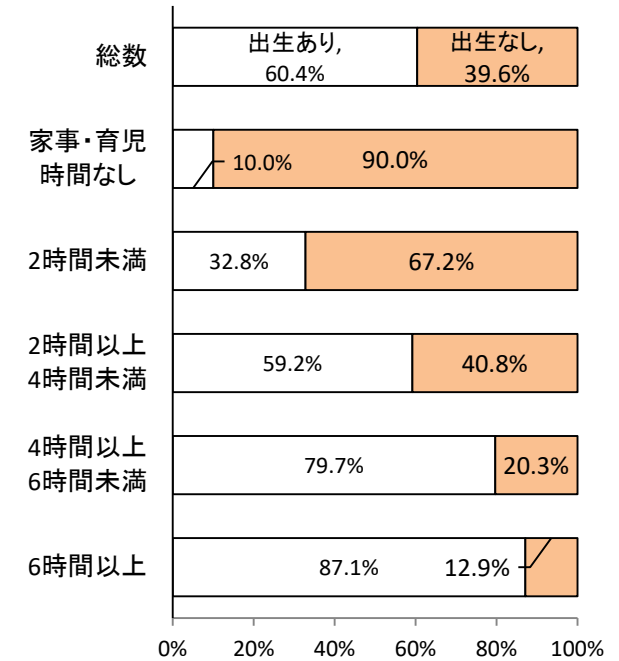
【6歳未満児のいる夫の家事・育児関連時間(1日当たり)】



【夫の平日の家事・育児時間別にみた妻の出産前後の継続就業割合】



【夫の休日の家事・育児時間別にみた第2子以降の出生割合】



(備考) 1. Eurostat "How Europeans Spend Their Time Everyday Life of Women and Men" (2004), Bureau of Labor Statistics of the U.S. "American Time Use Survey Summary" (2015) 及び総務省「社会生活基本調査」(平成28年)より作成。  
2. 日本の数値は、「夫婦と子どもの世帯」に限定した夫の時間である。

資料出所：仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2019(厚生労働省「第14回21世紀成年人縦断調査(2002年成年人)の概況」(調査年月：2015年11月)より作成)

- 注：
- 1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する同居夫婦である。  
①第1回から第13回まで双方が回答した夫婦  
②第1回に独身で第12回までの間に結婚し、結婚後第14回まで双方が回答した夫婦  
③妻が出産前に仕事ありで、かつ、「女性票」の対象者で、この13年間に子どもが生まれた夫婦
  - 2) 13年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。
  - 3) 「総数」には、家事・育児時間不詳を含む。

資料出所：仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)レポート2019(厚生労働省「第14回21世紀成年人縦断調査(2002年成年人)」(調査年月：2015年11月)より作成)

- 注：
- 1) 集計対象は、①または②に該当し、かつ③に該当する同居夫婦である。ただし、妻の「出生前データ」が得られていない夫婦は除く。  
①第1回調査から第14回調査まで双方が回答した夫婦  
②第1回調査時に独身で第13回調査までの間に結婚し、結婚後第14回調査まで双方が回答した夫婦  
③出生前調査時に子ども1人以上ありの夫婦
  - 2) 家事・育児時間は、「出生あり」は出生前調査時の、「出生なし」は第13回調査時の状況である。
  - 3) 13年間で2人以上出生ありの場合は、末子について計上している。
  - 4) 「総数」には、家事・育児時間不詳を含む。